

学位論文要旨	
氏名	ロールストーン デリック ギレット
題目	ガイアナの稲作における契約農業の役割と影響の評価 (Evaluation of the role and impact of contract farming on rice farming in Guyana)
<p>ガイアナにおいて米は国民の主食であり、稲作農業は国内総生産（GDP）の3.3%、農業総生産の20.5%に貢献し、約15,933人の農家の生活を支えている。しかし、その重要性と政府の取組みにもかかわらず、多くの問題が稲作農家の生産性と収益性を制限している。その中に、契約栽培の問題がある。契約栽培とは、農家と企業との間で、農産物の生産・販売条件を指定した口頭または書面による契約のことである。</p> <p>先行研究によると、契約栽培はリスク共有のメカニズムであり、安定した市場、生産投入物、機械設備、信用、技術知識の供給源であることが示されている。したがって、契約栽培に関する先行研究の一般的な結論は、農業所得を向上させ、契約作物に特化するインセンティブを与え、農家は金銭的利益が見込まれる場合にのみ参加する、というものである。</p> <p>しかし、既存の研究が扱っていない論点の一つは、契約栽培の役割や影響、およびそれが用いる価格システムとの関係である。価格システムとは、農家が生産物を販売する際に受け入れる支払い条件のことを指す。契約栽培ではいくつかの価格システムが利用されているが、それらが契約栽培の役割や収益性にどのような影響を与えるかについては、これまで研究が行われてこなかった。価格は農家の収入に直結し、生産意欲を左右するため、価格システムが契約栽培の役割と収益性に大きな影響を与える可能性がある。</p> <p>そこで、本論文では、異なる価格システム（高価格システムと低価格システム）の下での契約栽培の役割と収益性への影響について評価することを試みる。</p> <p>そのために、ガイアナのマハイカ・バービス地区およびエセキボ島・西デメララ地区の農家303名を対象に、社会経済、費用、契約栽培への参加に関するデータを収集した。データは、独立標本T検定、ロジスティック回帰、収益性分析、度数分布等を用いた。</p> <p>明らかになったのは以下の点である。</p> <p>高価格システムのもとでは、契約栽培は非契約栽培よりも収益性が高い。その収益性は、肥料を信用で購入できるため、より多くの肥料を投入したことによる収量増加によるものである。</p> <p>一方、低価格システムのもとでは、契約栽培への参加によって投入資材の使用量と販売価格が低下するため、非契約農家よりも収益性が低くなる。しかし契約栽培は生産リスクを共有し、肥料や信用の供給源であるため、農家は引き続き契約栽培に参加している。低価格システムの下での契約農家には、低収益を補うために他作物への転換や家畜の飼育など、より高付加価値の農産物に生産を分散させるインセンティブが働いている。</p>	